

支える人の学びの場

医療および教育専門職のための

こころ塾 2017

感情と身体性：先端の知と実践をつなぐ

2017.9.30(土)、10.21(土)、11.11(土)

各日とも 10:00~17:00 まで (受付開始 9:30~)

京都大学 稲盛財団記念館3階 大会議室

現代の社会には、人を支えることを仕事としている人たちがたくさんいます。中でも、教育や医療の現場で働く人たちは、子どもやお年寄り、病気の人や身体の不自由な人たちが安心して暮らせる社会の、一番の担い手でもあります。そして、支える人たち自身も元気で健やかに毎日を過ごせることが、私たちのめざす日本社会の姿ではないかと考えます。京都大学こころの未来研究センターでは、こうした考えのもとで「支える人たちが元気になる学びの場」を作ることの発想し、2013年から「こころ塾」を開講しています。【医療および教育専門職のためのこころ塾 2017】は、3日間コースで実施します。多数の皆さまのご参加をお待ちしています。

定員：100名（申込による先着順）※定員になり次第、締め切らせて頂きます。

参加資格：◇学校教員および教育関係の仕事に就いている方
◇作業療法士、理学療法士、臨床心理士、言語聴覚士の実務経験が3年以上の方
◇3日間全日参加できる方

情報交換会費：1,000円 × 3日（初日に集めます）

主催：京都大学こころの未来研究センター

共催：京都大学大学院医学研究科 脳機能リハビリテーション学分野 発達障害系研究室



プログラム

9:30~	受付開始
10:00~11:15	講義① 乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
11:30~12:45	講義② ゲスト講師
12:45~13:50	昼食
13:50~14:20	午前中の講義まとめ
14:20~15:10	事例報告
15:20~16:10	グループディスカッション
16:10~17:00	講師との Q&A

9月30日(土)

- 『感情と身体性1:円滑なコミュニケーションを支える神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『社会性という観点から精神科の病気を理解する』
村井俊哉 (京都大学大学院医学研究科・教授)
- 事例報告 加藤野百合 (京都大学医学部附属病院・作業療法士)

10月21日(土)

- 『感情と身体性2:感情の役割とその神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『思春期臨床にみる感情と身体性』
岩宮恵子 (島根大学人間科学部・教授・臨床心理士)
- 事例報告 松田祥子 (愛知県心身障害者コロニー中央病院・作業療法士)

11月11日(土)

- 『感情と身体性3:自閉症の神経機構』
乾敏郎 (追手門学院大学心理学部・教授/京都大学こころの未来研究センター・特任教授)
- 『自己制御の初期発達とその支援』
森口佑介 (京都大学大学院教育学研究科・准教授)
- 事例報告 松島佳苗 (京都大学大学院医学研究科・助教・作業療法士)



京都大学 稲盛財団記念館3階 大会議室
(京都市左京区吉田下阿達町46 [川端近衛南東角])
<http://kokoro.kyoto-u.ac.jp/jp/about/access.html>

申し込み方法

E-mail でお申し込みください。件名に「こころ塾 2017 申込」と明記し、必要事項を記入のうえ、お送りください。

必要事項

- 氏名(ふりがな)
- 所属先
- 職種
- 経験年数
- 返信用メールアドレス
- 受講動機・受講のきっかけ
- こころ塾で学びたいこと・講師への質問など

※⑥⑦は簡単にご記入いただければ結構です。
※受信後、こちらから受付のメールをお送りいたしますので、下記アドレスからメールが受け取れるよう受信設定をお願いいたします。

連絡先/申込先

京都大学こころの未来研究センター
リエゾンオフィス(平日9時~17時)

E-mail: kokoro-m@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

